

『同じ地域に学ぶ子どもたちの教育のために 小・中・地域の交流と連携を深めよう』

I 主題設定の理由

- 同じ地域に学ぶ子どもを教育する立場で、地域が抱える教育課題を共有し、その解決に向けた交流を行う。
- 地域との連携を強化し、「地域の子どもは、地域で教育する」という視点で地域の教育力の向上を図る。
- 小学校・中学校の連携を強化し、小・中の系統的な教育のあり方を研究する。

II 研究の内容

1 第1回ブロック交流研究会【夏季臨地研究会】

- (1) 日時 8月5日(金) 午後1時30分から
- (2) 場所 『塩山窯』甲州市塩山千野2971
- (3) 目的 地域の施設を活用することで、児童生徒の授業にいかしていく。
- (4) 内容
 - ・ブロック研究会の役員を紹介する。
 - ・焼き物(陶器)の基本について学習する。
 - ・『塩山窯』において、ひとり一作品を制作する。
 - ・指導者の作品を鑑賞する。
 - ・焼きあがった作品を届ける。(後日)

2 第2回ブロック交流研究会

- (1) 日時 11月16日(水) 午後1時50分から
- (2) 場所 松里中学校
- (3) 目的
 - ・松里ブロック小中教職員が、中学校の授業を観察し、生徒の様子を把握する。
 - ・学習や授業の様子を情報交換することで、地域の教育的課題を明らかにし、小中連携して、児童生徒の健全な育成を図る。

(4) 内容

【授業参観】 1 : 50 ~ 2 : 40

- 1-A 理科「力と圧力」 碓井篤教諭、河西江利子教諭
- 2-A 音楽「世界各国の歌を歌おう」 武藤真由美教諭
- 2-B 体育「サッカー」 清水佐知子教諭
- 3-A 社会「企業」 三枝比出夫教諭
- 3-B 英語「現在分詞と過去分詞」 三井絵里教諭

【全体会】 3 : 00 ~ 4 : 30

- ①各校の校内研究の概要について 各校研究主任より
- ②児童生徒の様子について 各校生徒指導担当より
- ③その他

III 成果と課題

1 成果

○学区内の施設で『陶芸』の体験ができたことは、とても有益だった。地域在住の陶芸家の方の作品を見たりお話を聞いたりしたことは、教職員の地域に対する見聞を高めることにつながった。作品作りをしながら、グループ内で教え合ったり見せ合ったりすることで職員同士が親しくなることができ、楽しく交流が図られた。

○中学校の授業を参観することで、卒業生の現在の姿を見ることができて良かった。いろいろな教科の授業を見せていただき、専門性の高い授業やティーム・ティーチングの活用などを参観することができた。授業規律の徹底など小学校との連携の必要性を感じることができた。

○各校の校内研究の概要や生徒指導上の問題点などを話し合うことで、子どもの実態やテーマが異なっても、同じ地域に住む児童生徒の学力向上という共通のねらいについて、小中の共通理解を深めることができた。

2 課題

○夏季の臨地研修は、事務局の負担を軽減するためにも、いくつかの候補地や内容をあげて、ローテーションで実施していくとよい。

○松里ブロックは3つの学校で構成されているので、年3回の研究会をそれぞれ分担していくとよいのではないかと。役員のローテーションと同様に、夏季臨地研修、授業公開、学習会の3回を各校で担当していく方向で進めたい。

○全体会ではなかなか意見が出にくいので、小中をいくつかのグループに分け、分科会ごとに話し合うなど、交流をより効果的に深めるための工夫をしていきたい。

(ブロック長 雨宮 由縁)